【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】　（小学校用）

都道府県名	沖縄県

Ⅰ．学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

那覇市立大道小学校　（フロンティアスクール名）										
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	3	3	1	１５		
児童数	７５	７６	７４	８０	８５	９５	3	４８８	２３	

Ⅱ．実践研究の概要

１．主題（テーマ）

「基礎学力」の定着を図るきめ細かな指導の工夫
－　個に応じた指導方法と指導体制の改善を通して　－

２．内容と方法

（１）実施学年・教科

全学年・算数科
前年度の研究の成果と課題から、教科を「算数科」とした。実施学年は、３名の指導法改善教諭が加配されたことで、全学年に広げ、習熟度別少人数指導を軸に指導体制の工夫・改善を図った。

（２）年次毎の計画

平成14年度

○テーマ
「基礎学力」の定着を図るきめ細かな指導の工夫
ー個に応じた指導方法と教材の開発を通してー

本校は、フロンティア事業の趣旨に則った上で、「確かな学力」を沖縄県教育委員会が新学力向上対策「夢・にぬふぁ星プラン」で示した「基礎学力」（①基礎的・基本的事項　②コミュニケーションの能力　③コンピュータ操作・活用能力）と捉えて研究を進めていく。

○仮説
①補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導のための教材を工夫して開発をすれば、基礎学力の定着を図ることができるであろう。
②きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を行えば、基礎学力の定着を図ることができるであろう。

○研究内容・方法
研究内容
（１）児童の実態を把握するために、児童と保護者へのアンケート調査を実施する。結果の分析・考察を行い、課題を明確にする。
（２）個に応じた指導法・教材開発についての研究および実践を行う。（習熟度別少人数指導・教科担任制）
（３）基礎的・基本的事項の定着についての研究および実践を行う。
（４）コミュニケーションの能力の定着・育成についての研究および実践を行う。
（５）コンピュータ操作・活用能力の定着・育成についての研究および実践を行う。

	研究方法 （１）全体研として行う授業研究会は年３回（低学年・中学年・高学年）とし、指導主事等を要請し研究を深める。 （２）授業研究会は「授業研究記録の様式」に合わせて行う。 （３）授業伝言ポスト・授業メールを設けて全員実践の検証授業・全員参加の授業研究会を目指す。 （４）研究の日常化を図り、日々の授業でも研究テーマを意識した実践を行う。 （５）研究記録を確実なものにし、ＰＤＳの資料として活用に努める。研究記録は、整理し研究報告書としてまとめる。 （６）研究資料・実践記録等はデジタル化（フロッピー・ＣＤ－Ｒ）し、次年度の研究に迅速に生かせるようにする。

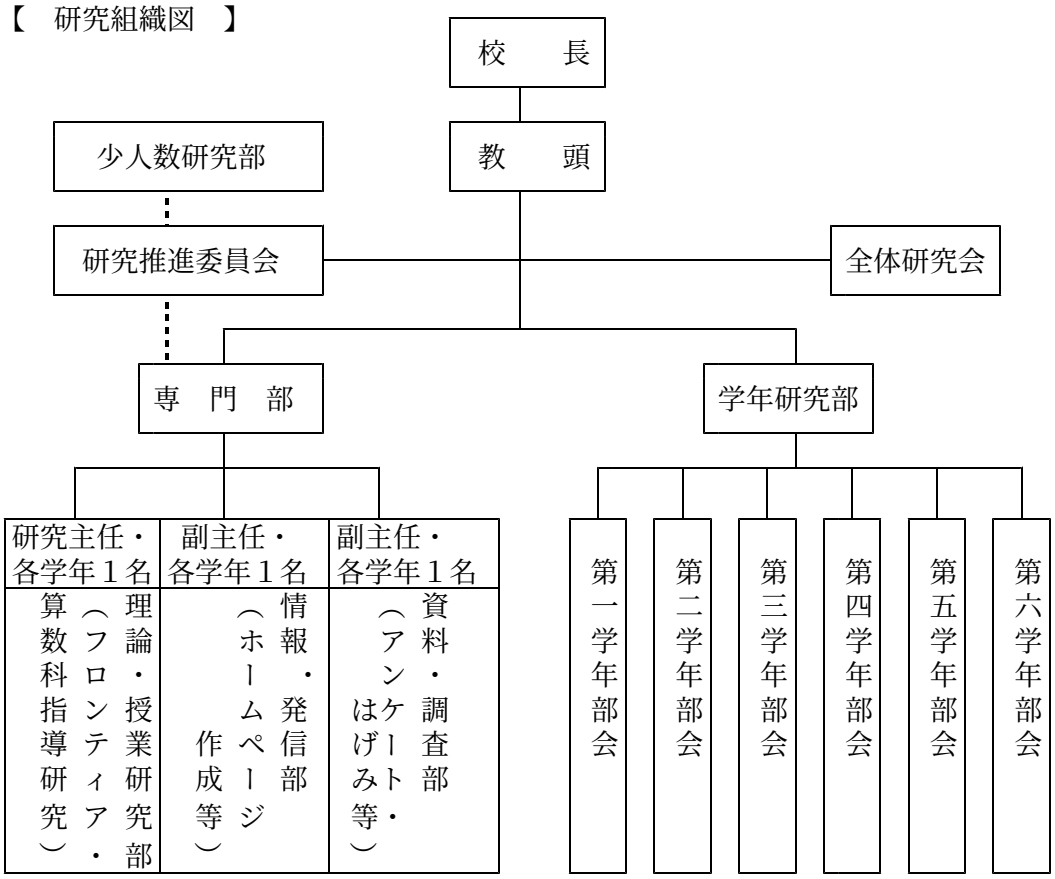
平成15年度	○テーマ **「基礎学力」の定着を図るきめ細かな指導の工夫** ～ 個に応じた指導方法と指導体制の改善を通して　～ ○研究の見通し（仮説） 習熟度別少人数指導等を中心とした個に応じた指導を行うことにより、きめ細かな評価・指導が可能になり，児童一人一人の実態に即した学習活動を展開し，基礎学力を高め、定着を図ることが出来るであろう。 ○研究内容・方法等 （１）テーマ・サブテーマの再検討、研修計画の修正と改善を行う。 （２）「基礎学力」についての共通理解を行うとともに，学力に関する調査を行い、児童の実態把握に努める。 （３）基礎的・基本的事項の定着についての研究および実践を行う。 （４）評価・指導過程における PDCA のサイクルを実践に取り入れ，児童の「基礎学力」の向上をめざす。 （５）指導体制・個に応じた指導法・教材開発についての研究および実践を行う。（習熟度別少人数指導） （６）フロンティアスクールの取り組みについても、PDCA の流れをもって、授業・研究評価を次の段階に生かせるよう情報交換会を多くもち・内部評価を充実させる。 （７）各学年１回の検証授業・研究会を行い，授業記録を蓄積する。また、課題については、次の研究に生かすようにする。 （８）外部講師を招聘しての提案授業・実技研修等の全体研究会を実施する。（教材段階から） （９）評価規準・判定基準の研究をすすめる。 （10）朝のはげみや計画的な補習の時間を設けたり、家庭学習のあり方を工夫したりするなど，基礎学力の定着を図る方法も検証する。

平成16年度	○テーマ 「基礎学力」の定着を図るきめ細かな指導の工夫 ー個に応じた学習評価のあり方を通してー ○仮説 個々の学習状況を適切に評価する評価と指導の一体化を推進し、評価方法を工夫すれば、子どもは学ぶ意欲を持ち、着実に基礎学力を高めることが出来るであろう。 ○研究内容・方法等

（１）フロンティアスクールの取り組みについて、外部評価を実施し、その結果を研究の方向性に生かす。
（２）個々の学習状況を適切に評価する方法を研究し、評価と指導のマネージメントサイクルを確立して児童の確かな学力を保障するための評価の方法について研究および実践を行う。

(3)研究推進体制

【　研究組織図　】



①　研究推進委員会
②　全体研究会
③　専門部会
　◎理論・授業研究部
　◎情報発信部
　◎資料・調査部
④　学年部会

Ⅲ．平成１５年度の成果及び今後の課題

○成果

【　研究的側面　】

◎　全学年において、習熟度別少人数指導等指導体制の改善を行ったため、校内研究の内容も共通なものとなり、理論・実践研究に深まりがみられた。

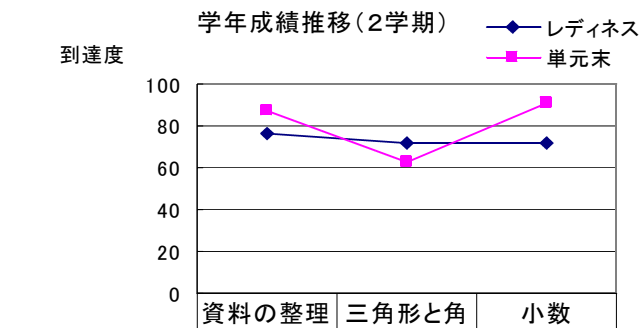
【　実践的側面　】

◎　各学年、児童の実態や単元の特性に合わせた指導方法・指導体制を工夫し、「基礎学力」の向上のため、個に応じた指導の工夫ができた。

【　児童の変容　】

◎　特に本校の課題である「算数科」に絞って実践した結果、諸単元テスト、達成度テスト等で算数科の基礎学力向上が数値上でも確認できた。また、児童の情意面でもよい結果へ結びついた。

【　レディネステストと単元末テストの比較　】



	資料の整理	三角形と角	小数
レディネス	76.8	71.4	72.2
単元末	87.6	62.7	91.1

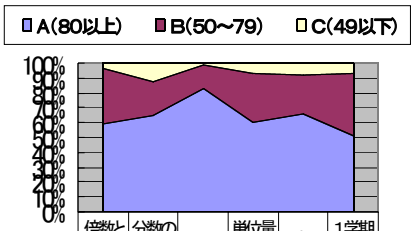
４年の成績推移（２学期）

小数の学習で、レディネステストの結果、習熟の差が大きかったため、学年少人数の体制をとった。

学年の担任２人に加配２人で、４つの習熟度別コースに分けたことにより、きめ細かな指導ができ単元末テストで学年平均９０点を越えた。

【６年生の成績の推移】

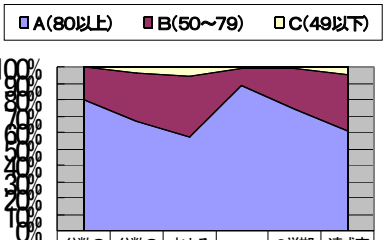
成績分布



	倍数と約数	分数のたし算	平均	単位量あたり	速さ	1学期平均
C(49以下)	2	18	1	6	8	7
B(50~79)	22	33	15	32	24	39
A(80以上)	35	96	78	57	62	49

１学級２集団の少人数指導を基本に習熟度別学習を主に行っていた。

成績分布



	分数のかけ算	分数のかけ算	およその面積	比	2学期平均	達成度テスト
C(49以下)	0	4	5	1	1	5
B(50~79)	19	28	34	10	23	34
A(80以上)	76	63	53	84	71	60

Ａの児童の多いので発展学習の必要性が課題

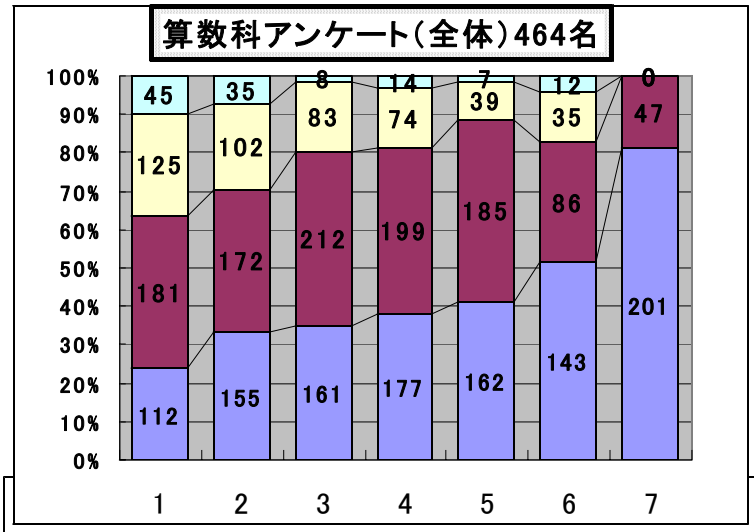
学年少人数指導を基本に習熟度別学習を主に行った。（４～５コース）

成果

Ｃの児童が減少すると共に、Ａがふえた。

・達成度テストで８割達成

【　児童の算数への関心度（アンケート結果)】



あてはまらない
（水色）

あまりあてはまらない
（　白　　）

あてはまる
（エンジ）

よくあてはまる
（　青　）

設問

①算数の学習はとくいですか。　あてはまる（６０％）
②算数の学習は好きですか。　あてはまる（７０％）
③算数の授業はわかりやすかったですか。　あてはまる（８０％）
④算数の授業は楽しかったですか。　あてはまる（８０％）
⑤算数の時間、学級を２つに分けての授業についてどう思いますか。　よい（８８％）
⑥算数の時間、学年を合同にして、いくつかのコースに分けて行った授業についてどう思いますか。　よい（８０％）
⑦ どんどんコースが多かった児童。　青（８０％）
　じっくりコースが多かった児童。　エンジ（２０％）

児童全員を対象にアンケートをとった結果上記のようになった。

③・④から、算数の授業のわかりやすさ、楽しさを８割の児童が感じている。とくに、じっくりコースの児童の方が算数がわかりやすい、楽しいと答えているのが多く、習熟度別少人数指導の成果といえる。

少人数指導に対してよいと感じている児童が８８％いることから、児童のほとんどが習熟度別学習を肯定的にうけとめていることがわかる。

◯課題

◎　算数科に絞った研究での成果を他教科・多領域へ広げたい。
◎　習熟度別少人数授業のための効果的クラス編成のあり方。
◎　保護者への説明責任
◎　研究の成果を HP 等を活用しての発信
◎　加配のない授業（一斉指導・他教科）での、個に応じたきめ細かな指導の研究
◎　「学力向上フロンティアスクール」としての独自性・開発の方向性の模索（地域・学校の実態の生かし方）

Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

・教研式 CRT（観点別到達度学力検査）・・・年１回・３学期に実施
・教研式 CRT の実施と分析（評価）・活用については、一人ひとりの児童の学力を客観的なデータとして把握し、次年度の個々の指導に活かすように努める。

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

那覇地区学力向上対策実践発表会「校内研の部」発表
日時：　平成 15 年７月 26 日　午後１時 30 分～
場所：　那覇市立金城小学校
対象：　那覇市内小学校・中学校
　　那覇市内ＰＴＡ
「ステップアップ・夢」（地区学力向上対策実践発表会）実践発表予定
日時：　平成 16 年２月 13 日　午後１時 30 分～
場所：　県立武道館
対象：　那覇地区小学校・中学校
　　那覇地区ＰＴＡ
・HP 作成等の工夫の実績及び今後の予定（http:www・・・・）
HP アドレス　http://www.nahaken-okn.ed.jp/daido-es/
フロンティアスクール一・二年次の成果を発信・更新

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
☑１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☑算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無